

固定せる美しさのみにこだわりて
躍動の生を形骸におとしつ たかお

季節の変わり目に熟睡すると風邪をひきにくいと言われますが、皆様の体調は良好ですか。私は、おかしいなと思ったら睡眠を充分とります。睡眠と目覚めの水一杯は、私の健康法です。神様から与えられた一日を、素晴らしい恵みの時としましょう。

さて、外国の話ですが人々が教会に行かないのは、クリスチャンが義務で礼拝に行く姿を見ているからだそうです。自分もあんなに惨めになりたくないから行きたくないと言う論理です。

聖書には喜びについての言葉や言及が120以上あります。神は私たちが喜ぶのを喜ばれます。たとえば、「神は喜んで与える人を愛してくださいませ。」

(2コリント9:7) 神は私たちの喜びの気持ちを受け取りたいし、その人を愛したくてたまらないのです。

聖書では喜びと賛美が一組で書かれています。喜びがあれば自然と賛美が口をついて出ます。感謝が溢れてくれば自然と賛美が生まれて、心は主に対する喜びではちきれんばかりです。喜びと賛美は親友です。そして内面の満たされた感情が、顔に輝き出て来ます。このように喜んだ顔でクリスチャンが礼拝に通うなら、「私も行きたい」と外部の人もうらやむことでしょう。「そして毎日、心をついにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」(使徒2:46—47)。

初代教会の彼らは楽しそうで、勢いに満ちていますね。彼らは外の人達に「好意を持たれた」のです。すなわち「行きたくさせる」「引き込まれるようだ」「無視できない」と言う明るい感化を及ぼしていたのです。クリスチャンは上を見上げることで、喜びの人になります。「喜びなさい」と新約聖書では何回も訴えています。喜んだ顔で礼拝に通うなら、隣人が「私も連れて行って」とあなたに頼むかもしれませんね。これこそが存在の証しです。

昔の「自転車やろー」の歌のように、楽しく、愉快地に教会に通う銀輪の一隊を見て、誘い込まれる人が生まれてくるなら爽快ですね。

今回のテーマが生まれたのは、実は私の私生活と関係

があります。一人になってから会話がほとんど無くなりました。それで時には声が出るのかと発声練習をします。毎日集会はあるものの、それも2〜3時間ほどですから、沈黙の時間が長く残ります。会話をしないと、笑いも起こりません。孤独の無言の顔のままであれば、口角筋も下がらなければ、体の免疫も低下を辿ります。

毎日の生活で喜び笑う工夫は、クリスチャンとして大切な要素です。喜び笑う明るさこそ教会に相応しく、自由に伸びやかな雰囲気には平和を感じます。私の電話の回数も増えました。信徒と会話して共に喜び楽しむ為です。電話が多くて迷惑している信徒がいるかもわかりません。少し辛抱して欲しいと思いながら、携帯を手に入れます。

喜び笑わないと暗い顔になり、気持ちも落ち込み、自律神経も乱れるそうです。聖書は「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」

(ピリピ4:4)と、喜びの縦軸は「主にあって」であります。

「詩と賛美と霊の歌とをもって互いに語り」(エペソ5:19)は、横の交わりで、縦横の喜びと賛美はともに聖霊がもたらしてくださる恵みです。

まず、目が覚めたら「おはようございます」「いのちを感謝します」と、主に申し上げます。そして目覚めに水一杯と、鏡の前での笑顔づくりで態勢を整え、やおら神に向かって祈りと賛美をささげるのが、一人身の私の朝のスタートです。聖書に接し、祈りで上を向くと、そこに主がおられます。朝の第一歩が鍵ですね。

私は時計のチクタク音と一緒に無口に生活しています。ここから日本への国際電話は特安で、一分間4セント(4円弱)です。電話で話したい方はメール等で番号をお知らせしてください。喜んであなたに電話をかけさせていただきますよ。お話ししましょう。笑いましょう。ただ、時差の関係で日本の10時〜13時の間です。

ボニータ教会では月一回合同礼拝を行いつつ、共に集まる事の喜びや豊かさを感じています。普段は約25km離れた礼拝の群れが、この時ばかりは出会って喜んでいきます。礼拝の喜びは倍加以上で勢いとなって感じます。皆様に主の祝福を願いつつ、中村敬宇。